

ポストコロナの新たな働き方 ワーケーションセミナー

株式会社オフィスたはら
2023年1月

講師プロフィール

田原洋樹(たはら ひろき)

(株式会社オフィスたはら 代表取締役 / 明星大学経営学部特任教授)

奈良県生駒市出身。大学を卒業したのち上京、大手旅行会社JTBで15年間に渡り、法人ソリューション営業を担当する。

2005年には当時の史上最年少営業マネージャーとして活躍した。2011年に株式会社オフィスたはらを設立、民間企業のリーダー開発や自治体主催のセミナー、講演活動を数多く行う。

2017年4月～現在、明星大学経営学部・特任教授として、地域創生や観光まちづくりなどをテーマに講義を行っている。



セミナーの全体像

- シリーズ1:ワーケーション概要
- シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)
- シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)
- シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)
- シリーズ5:ワーケーションの理解を深める(テスト編)



シリーズ1:ワーケーション概要

- ◆1. はじめに
- ◆2. 欧米発のワーケーション
- ◆3. 日本におけるワーケーション台頭の背景
- ◆4. 日本型ワーケーションとは？
- ◆5. ワーケーションへの期待(3つの視点から)



シリーズ1:ワーケーション概要

1. はじめに

2020年7月27日「観光戦略実行推進会議」

菅官房長官が、観光需要促進の一環として、
普及に取り組む意思を示す



「ワーケーション」というキーワードが
日本で一気に拡散

シリーズ1:ワーケーション概要

1. はじめに

つまり

「ワーケーション」とは

GoToキャンペーンと連動した

コロナ禍における観光需要拡大への期待

から出た言葉

シリーズ1:ワーケーション概要

2. 欧米発のワーケーション

ワーケーションとは

「ワーク(仕事)」と「バケーション(休暇)」

を組み合わせた造語

英語では、Workationあるいは、Workcationと表記され

欧米発祥の言葉である

シリーズ1:ワーケーション概要

2. 欧米発のワーケーション

2000年半ば以降、モバイルメディアの発展を背景に増えてきた

デジタル・ノマドと呼ばれる人たち

自分たちのライフスタイルやワークスタイルを指して、ワーケーションという言葉を使い始めた(松下,2022)

(出典: 松下慶太(2022)「ワーケーション企画入門ー選ばれる地域になるための受け入れノウハウー」,学芸出版社)

シリーズ1:ワーケーション概要

2. 欧米発のワーケーション

もともと、

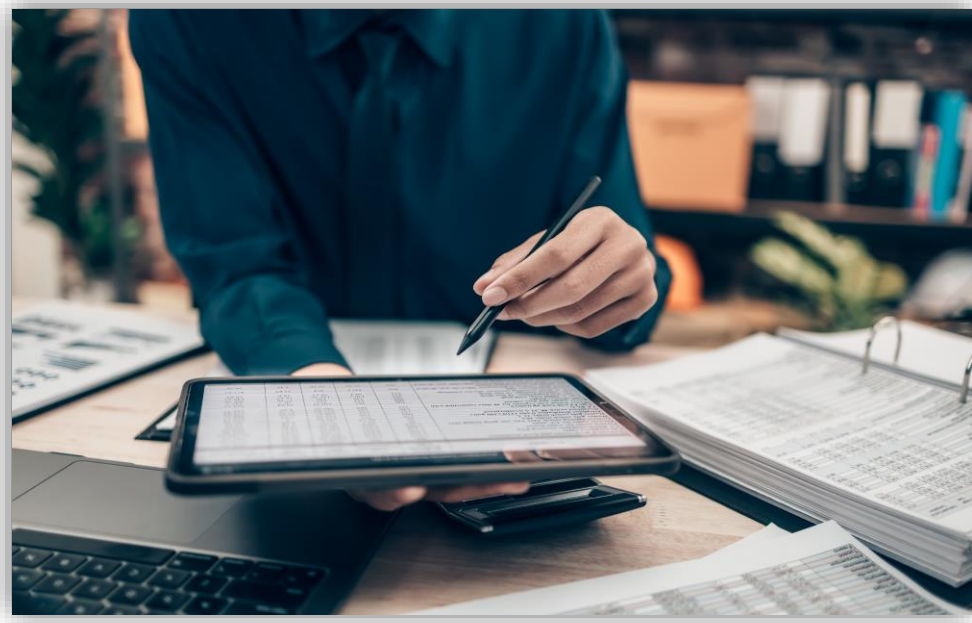
企業の人事制度や観光促進として

利用されているものではなかった

シリーズ1:ワーケーション概要

3. 日本におけるワーケーション台頭の背景

コロナ禍によるテレワークの普及
都心のオフィスへ**通勤する必要性が薄まった**

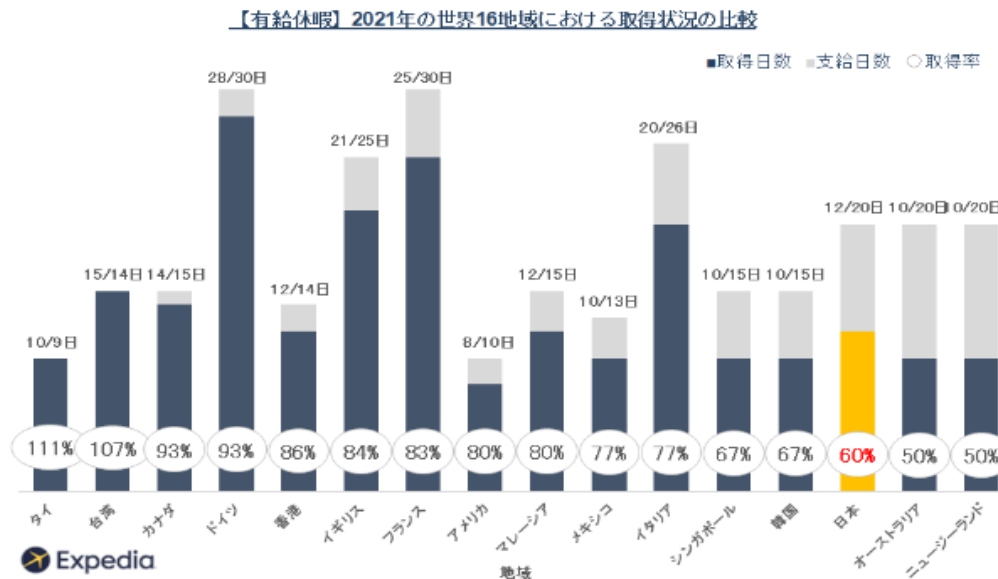


シリーズ1: ワークেশョン概要

3. 日本におけるワークেশョン台頭の背景

「働き方改革」の推進

長時間労働の是正や**有給休暇**の取得促進



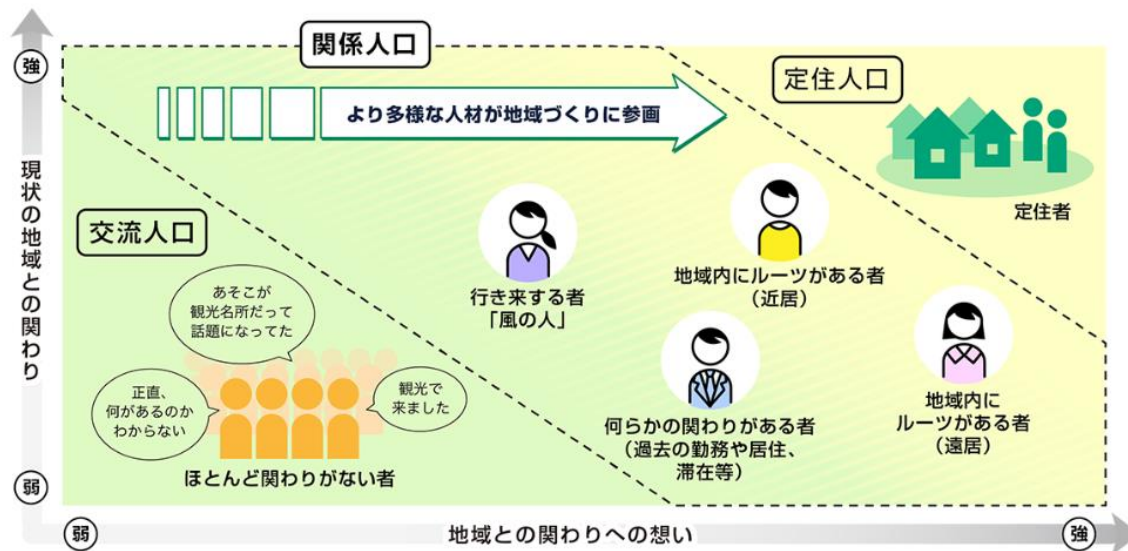
(出典: エクスペディア(2022)「世界16地域 有給休暇・国際比較調査 2021」, <https://www.expedia.co.jp/stories/vacationdeprivation2021-1/>)

シリーズ1:ワーケーション概要

3. 日本におけるワーケーション台頭の背景

地方創生政策の実践

第2次総合戦略では、**関係人口の創出・拡大**が取りあげられる

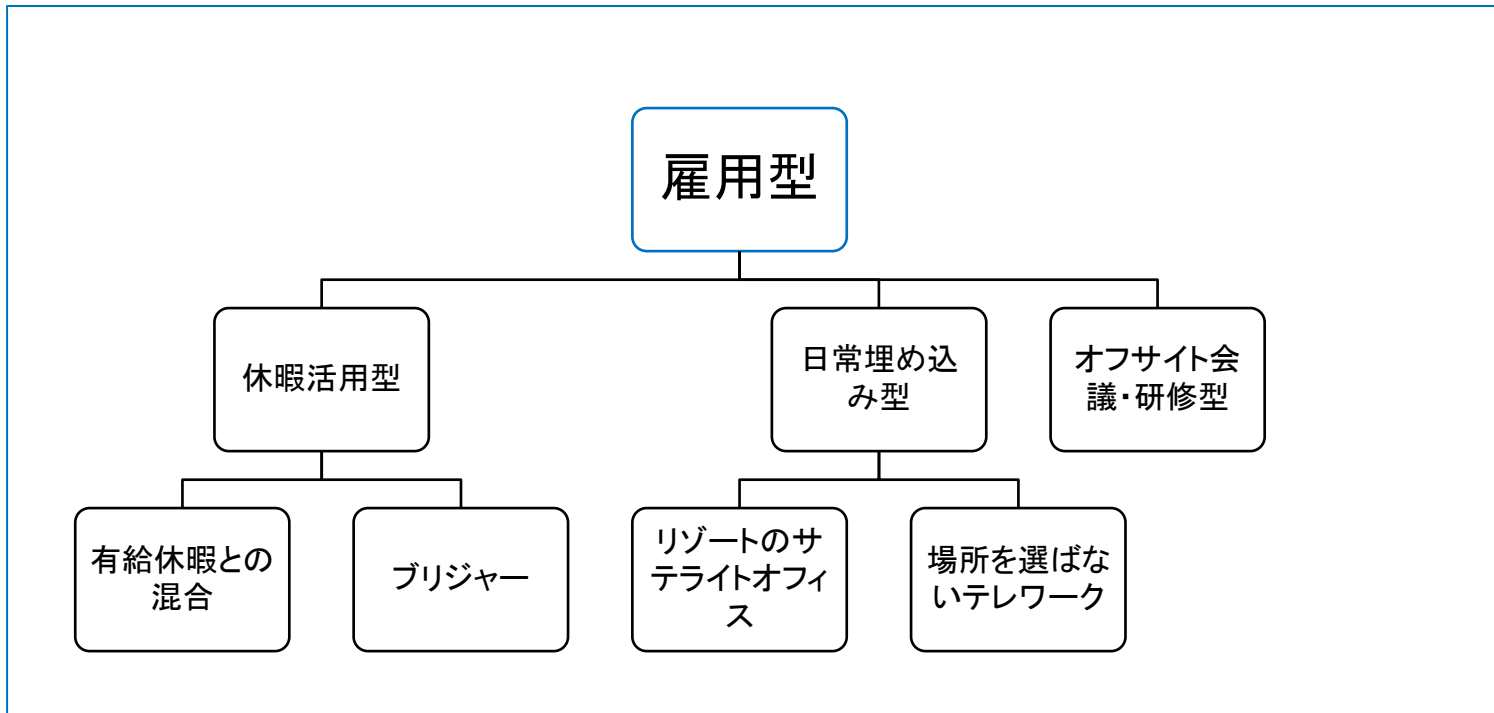


(出典:総務省 関係人口ポータルサイト「関係人口とは」, <https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>)

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？

ワーケーションの分類



フリーランス型

(出所) 田中・石山 (2020) 「日本型ワーケーションの効果と課題—定義と分類、およびステークホルダーへの影響—」 『日本国際観光学会論文集』 をもとに加筆修正

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？

A. 休暇活用型



長期の旅行などで**有給休暇を取得中**に

短時間で

仕事を行う(テレワークで会議に参加するなど)

(出所)石山(2021)「地域とゆるくつながる選択肢の増加を一地方副業、サードプレイス、ワーケーションとはー」『地方議会人』

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？



A. 休暇活用型

ブリージャー (Bleisure)

ビジネスとレジャーを掛け合わせた造語

出張の前後に有給休暇を取得して休暇を楽しむ

(出所)石山(2021)「地域とゆるくつながる選択肢の増加をー地方副業、サードプレイス、ワーケーションとはー」『地方議会人』

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？



B. 日常埋め込み型

日常的に余暇と遊びを組み込むこと
リゾート地での

サテライトオフィスや
コワーキングスペースの利用

(出所)石山(2021)「地域とゆるくつながる選択肢の増加を一地方副業、サードプレイス、ワーケーションとはー」『地方議会人』

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？



B. 日常埋め込み型

広い意味では、風光明媚な地域での**在宅勤務も該当**

(場所を選ばないテレワーク)

(出所)石山(2021)「地域とゆるくつながる選択肢の増加を一地方副業、サードプレイス、ワーケーションとはー」『地方議会人』

シリーズ1:ワーケーション概要

4. 日本型ワーケーションとは？



C. オフサイト会議・研修型

リゾートなどの遠隔地で、オフサイト(非日常の環境)の

研修やミーティングを実施

(出所)石山(2021)「地域とゆるくつながる選択肢の増加を一地方副業、サードプレイス、ワーケーションとはー」『地方議会人』

シリーズ1:ワーケーション概要

5. ワーケーションへの期待(3つの視点)



制度を導入する企業側の期待



導入された制度を利用する側
(従業員)の期待



導入企業や制度利用者を受け入れる地域側(行政・関係事業者)の期待

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

- ◆1.制度に期待すること
- ◆2.実態調査
- ◆3.先進事例の紹介
- ◆4. まとめ



シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

1.制度に期待すること

- 働き方改革の推進
- テレワークの普及
- BCP対策
- 健康経営・ウェルネスの促進
- 優秀な人材確保と維持
- 有給休暇の取得促進



(出所)田中(2020)「新たな時代を迎えたワーケーションーその可能性と課題ー」『OMNI-MANAGEMENT』2020.10

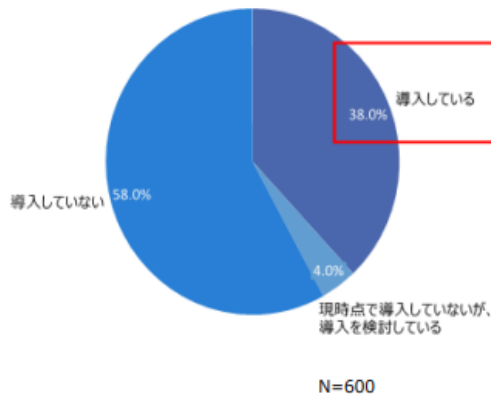
シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

2.実態調査(企業向け調査から)

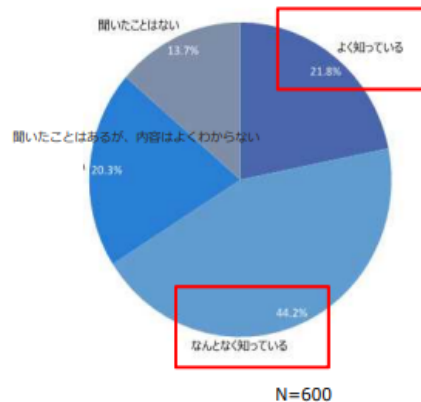
テレワークとワーケーションの導入率・認知率

- **テレワーク導入率は、38.0%** (昨年度 38.3%)
- **企業におけるワーケーション認知率は、66.0%** (昨年度 48.5%)
- **ワーケーション導入率は、5.3%** (昨年度 3.3%)

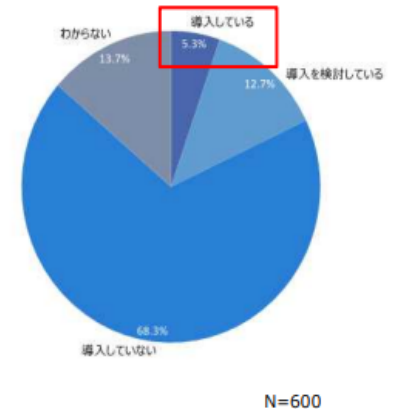
<テレワークの導入状況>



<ワーケーションの認知>



<ワーケーションの導入状況>



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

2.実態調査(企業向け調査から)

テレワークの実施形態

- 新型コロナ対策が95.6%⇒85.3%に減少した一方で、
**優秀な人材確保(26.5%⇒30.2%)、賃料等の経費削減(2.9%⇒16.3%)、
 交通費等の経費削減(6.6%⇒15.9%)は、いずれも増加した。**



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankoch/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

2.実態調査(企業向け調査から)

テレワークの実施目的

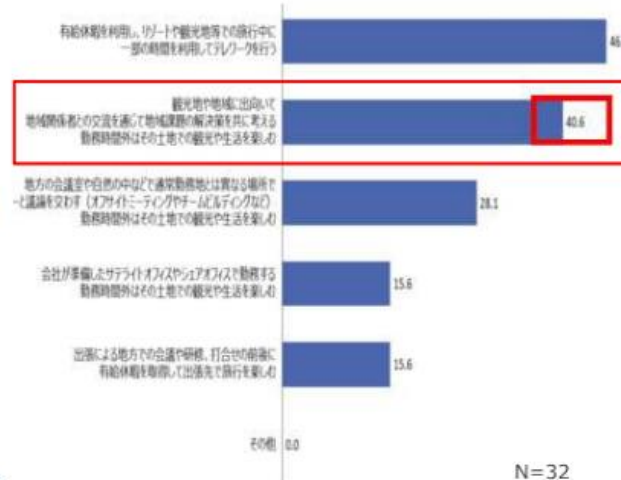
- 福利厚生型が最多ではあるが、66.7%⇒46.9%に減少した一方で、**地域課題解決型が22.2%⇒40.6%と大幅に増加した。**

<2020年度>



(注)回答サンプル数が少ないことに留意。

<2021年度>



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」
<https://www.mlit.go.jp/kankoch/workation-bleisure/>

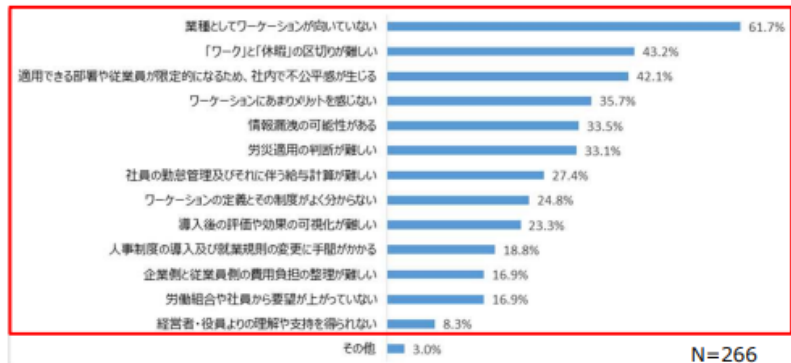
シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

2.実態調査(企業向け調査から)

ワーケーションを導入しない理由

- **業種として向いていない(60.5%)**が最も多く、次いで、**「ワーク」と「休暇」の区別が難しい(20.5%)**、**効果を感じないため(16.3%)**が多くなっている。
- 昨年度の調査では、社内で不公平感が生じる(42.1%)、情報漏洩への懸念(33.5%)、労災適用の判断が難しい(33.1%)等、**全般的に課題と感じる点が多くみられたが、今年度はそれぞれの項目で割合が大幅に減少していることから、それらの課題の理解は進んだものと考えられる。**

<2020年度>



<2021年度>



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankoch/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

2.実態調査(企業向け調査から)

モデル事業参加企業ヒアリングによる効果と課題

モデル事業を通じて得られた【効果】

- ▶ **社員満足度やエンゲージメント、チームビルディングの向上に向けた有用性を実感**
 - 景観等の環境の良い場所での勤務はリフレッシュ効果や仕事の没入感を高める効果があり、社員の満足度が高かった。
 - 日頃の職場では生まれにくいコミュニケーションが積極的に行われたことにより、部署を跨いだ仕事の相互理解や一体感の醸成につながった。
- ▶ **新たな知見取得や地域と関係性づくりから、地方創生や事業領域拡大の可能性を認識**
 - 地域課題解決型のワーケーション実施を通じて、地域のリアルを身をもって体験でき、地域が求めていることを知るきっかけとなった。
 - 企業として地域接点を獲得することができ、地域との良好な関係構築につながった。(継続的往訪する土壌ができた)
 - 自社の専門性を活用することで、地域課題の解決や事業領域の拡大の可能性を実感した。

ワーケーション推進にあたっての【課題】

- ▶ **ワーケーションの実施目的の明確化**
 - 実際にワーケーションを体験したことで、社員のリフレッシュだけでなく、企業活動そのものに良い影響を及ぼす効果があることを理解した一方で、有効に活用するためには、実施目的を明確にすることが重要と感じた。
- ▶ **ワーケーションに対応する社内規定の整備**
 - さまざまな企業課題解決の手段として、ワーケーションの可能性を認識したが、制度導入にあたって、就業規則や出張規定といった社員の働き方や働く場所等を定めるルールづくりが課題になると感じた。(今回の体験を通して、改訂が必要なルールや協議すべき部署等は精査された)
- ▶ **企業と地域の目的の相互理解**
 - 目的やニーズについて地域側とのミスマッチがあり、十分なワーク時間を確保できなかった。
2回目以降は調整を行い、改善されたが、企業と地域が双方の目的を相互理解する重要性を感じた。

(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankochu/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介



日本航空株式会社



ユニリーバ・ジャパン



株式会社野村総合研究所
(NRI)



日本マイクロソフト
株式会社



株式会社
セールスフォース・
ドットコム



ランサーズ株式会社



サイボウズ株式会社



株式会社LIFULL



株式会社内田洋行



株式会社日本能率協会
マネジメントセンター
(JMAM)

(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(JAL)

- 2017年より、**有給休暇取得率向上**を目的として「休暇型」ワーケーションを導入
- 長期休暇をとることの**抵抗感**や、復帰後に業務量が増えることへの**不安**を軽減
- 社員は、事前に休暇取得を申請、当日の就業場所、開始と終了時間の報告を義務化
- 社員からは「**モチベーション**が向上する」などのポジティブな声が多い
- 2017年度の利用者17名→2020年度は延べ約400名
- ワーケーションの形態も多様化「合宿型ワーケーション」や、**地域での体験活動**(北海道でのビール醸造体験や、愛媛県での農林体験など)も充実
- より**進捗管理**ができるプロジェクトマネジメントスキルの重要性を意識



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2: ワークेशन制度を提供する(人事側)

3. 先進事例のご紹介(株式会社野村総合研究所)

- 2017年より、徳島県三好市からスタート、通称「三好キャンプ」と呼ばれる
- 平日は通常業務、週末は休暇を取る仕組み、1ヶ月を前後2週間で区切り、15～16名が参加(これを年間3回実施)
- 業務的なモチベーションの維持、**イノベーション**を生み出す環境づくりとして期待
- 市役所に出向していた社員が**コーディネート**したことがきっかけ
- 地域の人との交流を通じ「**自分が役に立っている**」ことを実感、会社の中だけでは気づけない感覚をつかむ
- 地域の人へも刺激を与える
(地元の高校での出張講義の実施)
- 「サテライトオフィスの魅力は、オフィスの外にある」



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(株式会社セールスフォース・ドットコム)

- 2015年に、南紀白浜(和歌山県)にサテライトオフィスを開設
- 場所や時間でなく「**成果**」で仕事を進めるための制度設計が必要
- 社員と企業との**エンゲージメント**、相互理解と信頼関係の構築が前提
- 仕事とプライベートがうまく絡み合う状態「**ワークライフインテグレーション**」
- 地域との向き合い方、会社や仕事への向き合い方、家族との向き合い方を**見つめ直す機会**となる



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(サイボウズ株式会社)

- 社員全員が在宅勤務を余儀なくされた**東日本大震災**をきっかけに、リモートワークの有効性に気づく
- 働く**時間や、場所**をフレキシブルに展開する仕組みを導入
- そもそもワーケーションの意識はなく、働き方の概念は社会に先行
- 採用の幅が増え、特に**中途の人材**は増強される結果に
- コロナ禍は変わるチャンス→特に**地方や中小企業**にとって大きい
- 地方でバーチャルやサテライトでビジネス展開する企業が増えれば、**幸福度**も上がるはず



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(株式会社内田洋行)

- 学校の跡地を活用した「**熱中小学校**」の取り組み、人材育成や農業のIT化促進
- 2019年に台風被害があった宮城県丸森町の復興再生の一環で、翌年ワーケーションの**実証実験**に参加
- 森林療法を実践したワーケーションプログラムを実施
- 地域への理解や貢献以外に、**チームビルディング**の効果
- 地域に入った社員が都心に戻り、地域の**宣伝効果**が生まれる



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(ユニリーバ・ジャパン)

- 2016年7月「**WAA**(ワー): Work from Anywhere and Anytime)」を導入
- 上司に申請し業務上の支障がなければ、理由を問わず会社以外の場所が可能
- **1日の労働時間は決めず**、1ヶ月の所定労働時間を設定 不足した月は翌月以降に調整可能
- 工場のオペレーターを除く、**全社員を対象**
- 「仕事への意欲が増した」「人生が変わった」「会社に**信頼**されている」と高評価
- 会社に対する愛着心、貢献意欲、モチベーションが向上し、**欠かすことのできない制度**となる
- 2019年7月「地域de WAA」 8つの**自治体と連携** 地域でのイベントやアクティビティに参加が可能 新しいビジネスにつながる**アイデア**もうまれている



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankochoworkation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(日本マイクロソフト株式会社)

- **日常と特別**という関係性やルールがない
- **いつでもどこでも活躍できる制度設計**の中で仕事ができる
- 経営者と従業員と人事管理が**トリプルWin**の関係性
- 「いつでもどこでも誰とでもコラボレーション」
- 多様な考え方やプライオリティを**組織として取り込む**ことで変化する時代に生き残れない



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(ランサーズ株式会社)

- **以前から**働く場所に制限を設けていない
- 一気にやるのではなく、実証実験的に**小さく始める**
- **世界一周旅行**をしながら働く社員もいる
- アイデアは、新しい場所で**刺激を受ける**ことで生まれる
- 常に新しいことに取り組まないと企業は**生き残れない**



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

3.先進事例のご紹介(株式会社LIFULL)

- 多拠点コワーキング施設(Living Anywhere Commons)が全国13拠点を展開
- 地域在住の**コミュニティーマネージャー**を通じた企画や交流が特徴
- 若者に働き方の自由を選択肢として提供することで、企業の**採用力**が上がる
- この10年で、どのような「働き方」をさせたいか、ワーケーションの**必要性を感じた企業**が動いている
- ワーケーションは、働き方の**実証実験**



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2: ワークेशन制度を提供する(人事側)

3. 先進事例のご紹介(株式会社日本能率協会マネジメントセンター)

- 企業と地域をつなぐ役割を事業として展開「ラーニングワークेशन」
- **ローカルベンチャー×企業人材**による地域課題解決「ことらぼ」
- **親子**で参加「親子ワークेशन」
- 都市と各地域を往来する**越境学習**「here there(ヒアゼア)」
- 地域は会議室やデジタルではできないリアルな**学びの場**
- 地域人材と企業人材の**双方が成長**する場の提供が必要



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ2:ワーケーション制度を提供する(人事側)

4.まとめ

- **当初は**、有給休暇率向上や社員のモチベーション、エンゲージメントの向上など、効果は、**限定されたもの**であった
- 最近**は**、**地域との連携**を意識した活動が拡がり等で、その効果は多岐に及ぶ(**イノベーション**を生み出す、自身の**内省**の場、**チームビルディング**を高める他)
- ワーケーションは「自由な働き方」の**実証実験**
- コロナ禍が**チャンス**、特に**中小企業**は小回りがきくため大きなチャンスともいえる
- ワーケーションを取り入れることで**採用力**が向上する
- ワーケーションは、これからの企業の**生き残り戦略**の一つ

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

- ◆1.制度に期待すること
- ◆2.実態調査
- ◆3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと
- ◆4. まとめ



シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

1.制度に期待すること

- 長期休暇がとりやすい
- いつもと違う場所で働くことで新たな発想が生まれる
- 自律的・自己管理的な働き方ができる
- モチベーション向上
- 家族と過ごす時間や育児などに使える時間が増える



(出所)田中(2020)「新たな時代を迎えたワーケーションーその可能性と課題ー」『OMNI-MANAGEMENT』2020.10

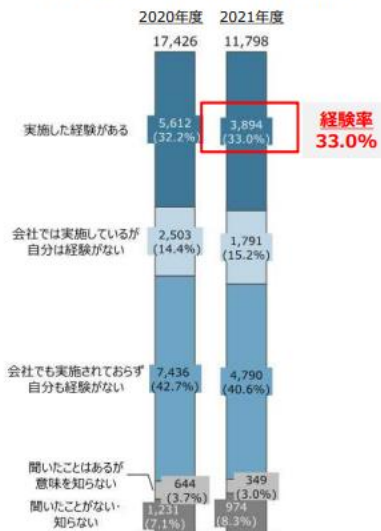
シリーズ3: ワークेशन制度を利用する(社員側)

2. 実態調査(従業員向け調査から)

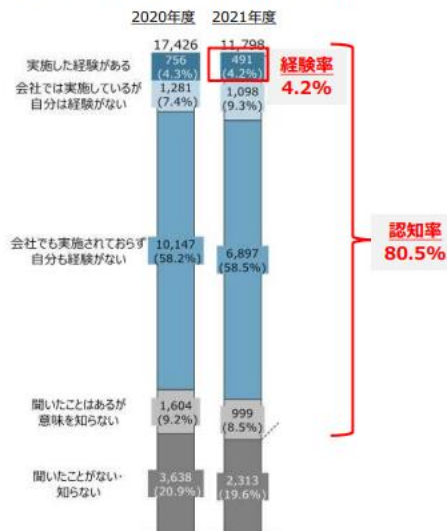
テレワークとワークेशनの経験率・認知率

- **テレワーク経験率は、33.0%** (昨年度 32.2%)
- **従業員におけるワークेशन認知率は、80.5%** (昨年度 79.1%)
- **ワークेशन経験率は、4.2%** (昨年度 4.3%)

<テレワークの認知と経験有無>



<ワークेशनの認知と経験有無>



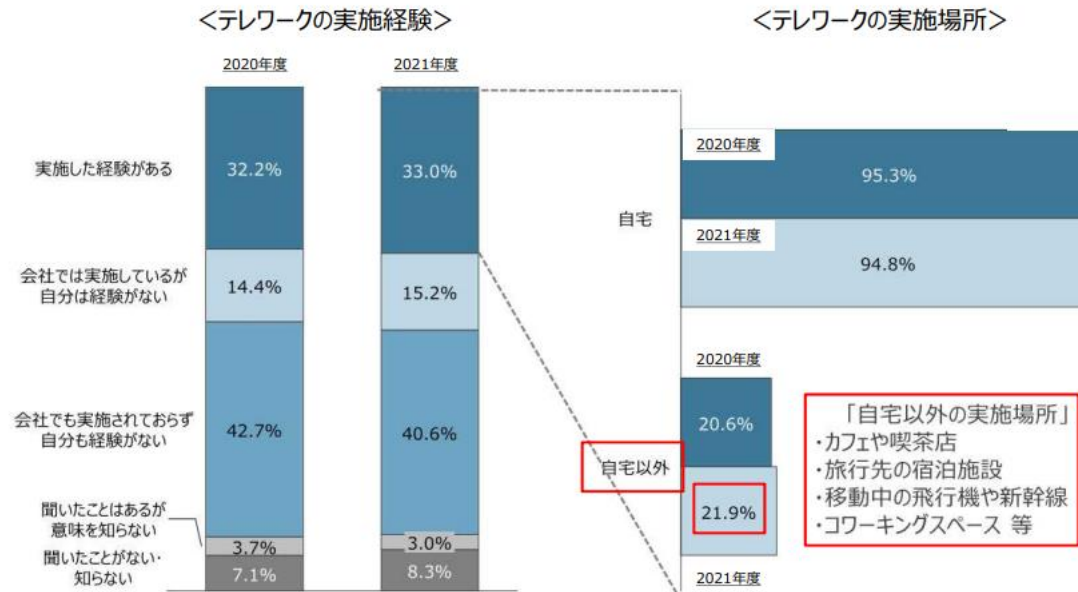
(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

2.実態調査(従業員向け調査から)

テレワークの実施経験と実施場所

○ テレワーク経験者33%のうち、**21.9%は自宅以外でもテレワークを実施**していることから、**実質的にはワーケーションを実施している者も一定程度存在**する可能性がある。



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankochoworkation-bleisure/>

シリーズ3: ワークेशन制度を利用する(社員側)

2. 実態調査(従業員向け調査から)

ワークेशनの実施理由

- **リフレッシュ効果(36.5%)**が最も多く、次いで、**働く場所にこだわらない(30.2%)**、**働き方改革推進(28.8%)**、**ワークライフバランス推進(28.4%)**が多くなっている。



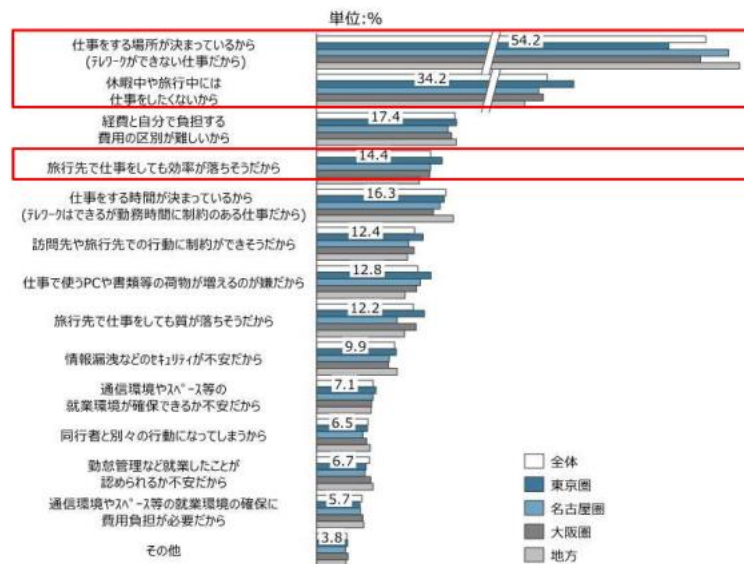
(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankoch/workation-bleisure/>

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

2.実態調査(従業員向け調査から)

ワーケーションに興味がない理由

- **仕事をする場所が決まっているから(54.2%)**が最も多く、次いで、**休暇や旅行中に仕事をしたくないから(34.2%)**、**効率が落ちそうだから(14.4%)**等が上位を占めている。



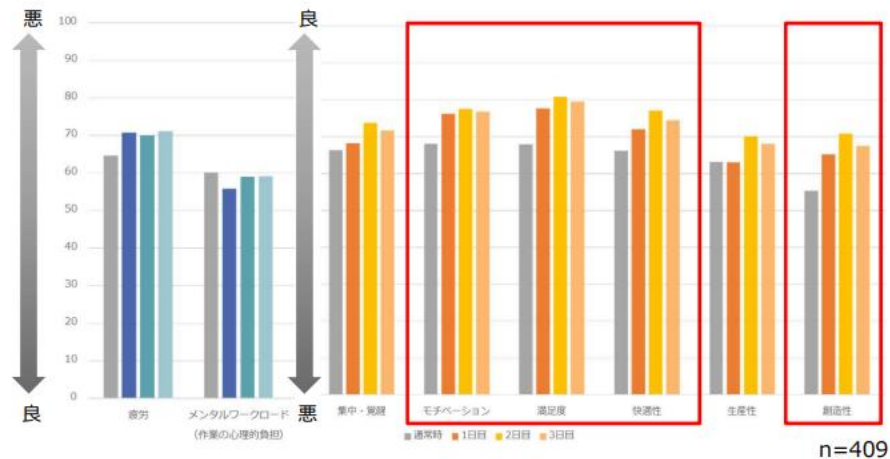
(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

2.実態調査(従業員向け調査から)

モデル事業参加者主観アンケートによる効果

- 特に「モチベーション」(意欲)、「満足度」(心が満ち足りている)、「快適性」(ストレスの負荷が少ない)、「創造性」(独自の発想)、のスコアがワーケーション時に高まっており、「生産性」も改善がみられる。



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

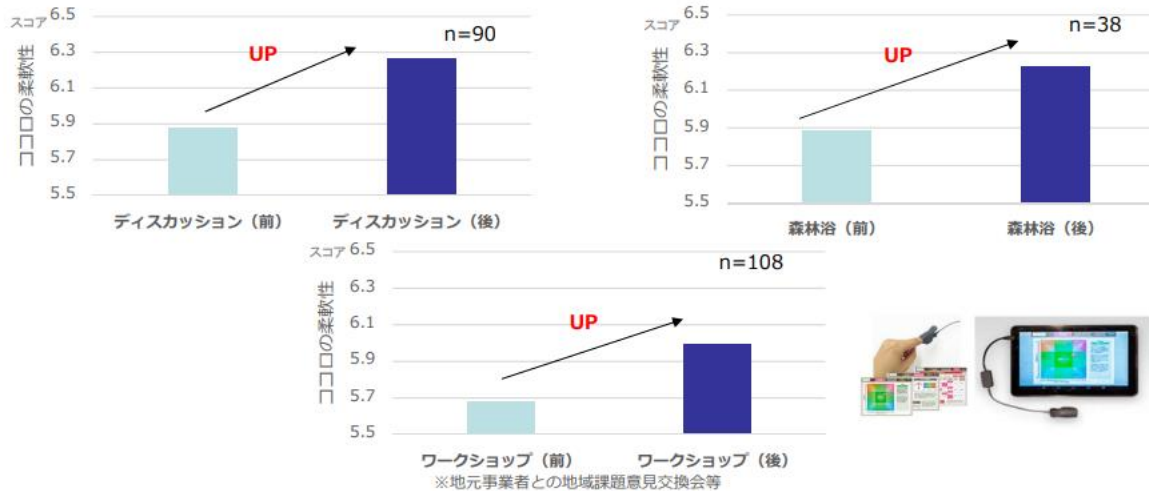
シリーズ3: ワークेशन制度を利用する(社員側)

2. 実態調査(従業員向け調査から)

モデル事業参加者の科学的効果その1 (脳波センサによるコミュニケーションの活性度合い評価)

- トライアルの前後で、ココロの柔軟性(脈波のゆらぎ)が大きくなっており、**外部環境に柔軟に対応し、キモチがオープンな状態になっている傾向**がみられる。
- **ココロの柔軟性(脈波のゆらぎ)の高まりは、コミュニケーション意欲の向上を示唆していることから、ワークेशनにより、チームビルディングにポジティブな効果**が得られると考えられる。

※ココロの柔軟性とは：脈波のゆらぎをカオス解析することで、コミュニケーションを積極的にできるか、生きる意欲、キモチのオープン度合、外部環境に柔軟に対応できる精神的強さがあるかを示す指標



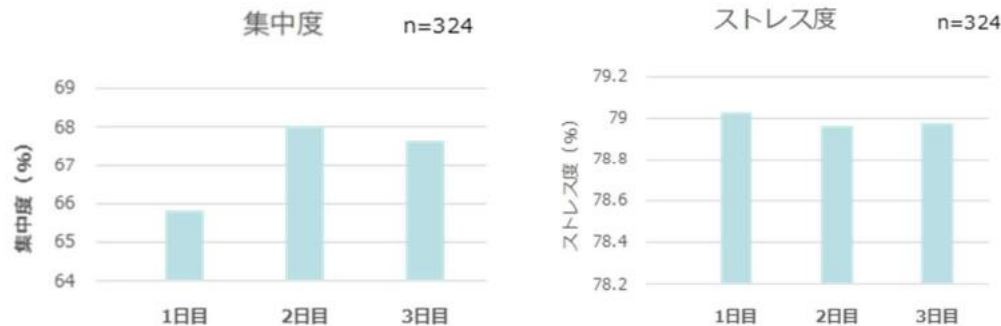
(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankoch/workation-bleisure/>

シリーズ3: ワークेशन制度を利用する(社員側)

2. 実態調査(従業員向け調査から)

モデル事業参加者の科学的効果その2 (心拍変動解析による感情判定)

- 心拍変動の測定データより、初日と比べて**集中度が高まり、ストレスが軽減する(副交感神経が高まる)**傾向がみられた。
- 海外の先行研究では、**副交感神経が高まることで、従業員のエンゲージメントが向上**する可能性が示唆されている。



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワークेशन&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと 情報セキュリティ編

- セキュリティやスピード面が確保されたWi-Fi等の通信環境 **54.3%**
- 入退室管理やシュレッダーなどのセキュリティ対策 **36.5%**

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと ハード面の整備編

- 執務に必要な個室などのプライベートな空間 **33.8%**
- プリンターやスキャンなどができる複合機 **31.6%**
- 商談できるスペース、またはチームで仕事や会議ができるスペース **19.5%**

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと 子育て支援編

- 赤ちゃんや小さい子供を預ける保育施設等 **12.0%**
- 家族が楽しめるアクティビティや体験コンテンツ **10.2%**

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと 観光関連訴求編

- 家族が楽しめるアクティビティや体験コンテンツ **10.2%**
- 地域の魅力を体験できるアクティビティや体験のコンテンツ **8.6%**
- 受け入れ地域や施設のスタッフのサービス(笑顔・親切等) **6.4%**
- 特色がある地域の食材や食事の提供 **5.6%**

(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

3.「ワーケーション」導入において、受け入れ地域や施設に整備してほしいこと その他編

- 自身のスキルアップを目的とした研修プログラム
12.8%
- 地域の企業や人との繋がりをサポートする「関係人口コ
ンシエルジュ」的な人 6.4%
- その他 13.5%

シリーズ3:ワーケーション制度を利用する(社員側)

4.まとめ

- ワーケーションの認知率は**80%**を超える一方、実施率は**4.3%**にとどまる
- **モチベーション**アップ、**満足度**の向上、**快適性**などの主観的な効果は見込める
- **情報セキュリティ**やハード面のさらなる整備が求められる
- **子育て**環境、**観光**面、地域の**交流**など、ニーズは高まっている

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

- ◆1.制度に期待すること
- ◆2.実態調査
- ◆3.事例の紹介
- ◆4.まとめ



シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

1.制度に期待すること

【行政側】

- 交流人口、関係人口の拡大
- 空き家、空きオフィスの改善
- 地域の事業者(観光等)の活性化
- 地域住民との交流促進



シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

1.制度に期待すること

【関連事業者側】

- ・ 観光事業(ホテル・旅館・旅行・交通・土産等)の活性化
- ・ 観光事業以外の事業者の活性化(不動産、IT、商業等)

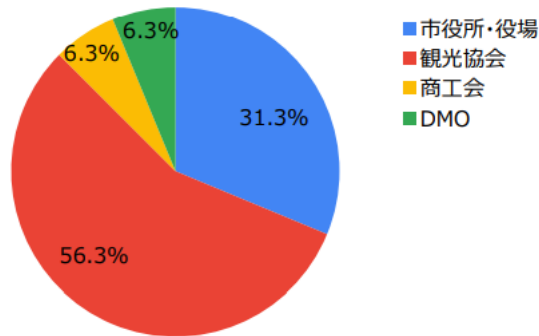


(出所)田中(2020)「新たな時代を迎えたワーケーションーその可能性と課題ー」『OMNI-MANAGEMENT』2020.10

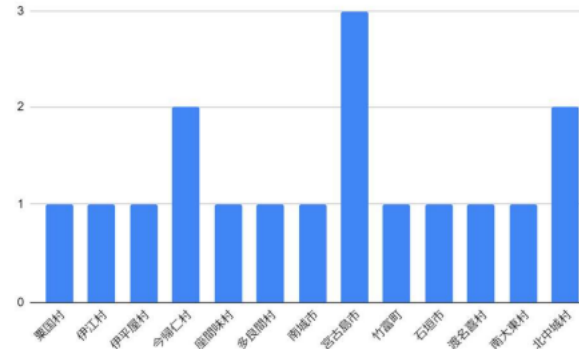
シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 自治体・DMO等編)

施設概要



所在地(市町村)

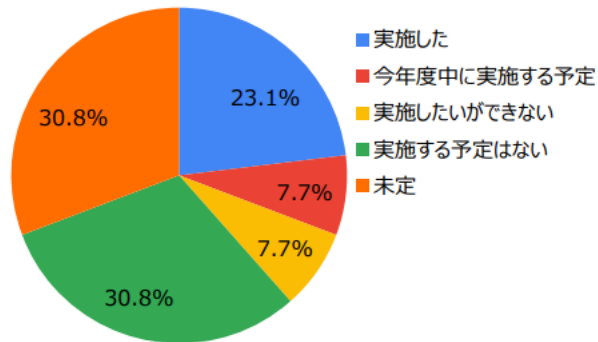


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

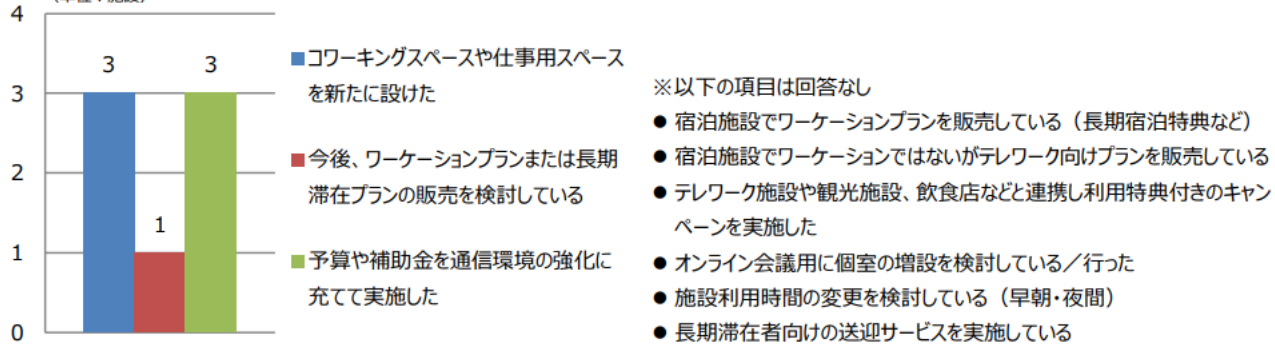
2.実態調査(受け入れ環境 自治体・DMO等編)

団体・組織主体で、ワーケーションに関する取り組み



過去2年間の地域や組織で行ったワーケーションに関連した取り組み(複数回答)

(単位:施設)

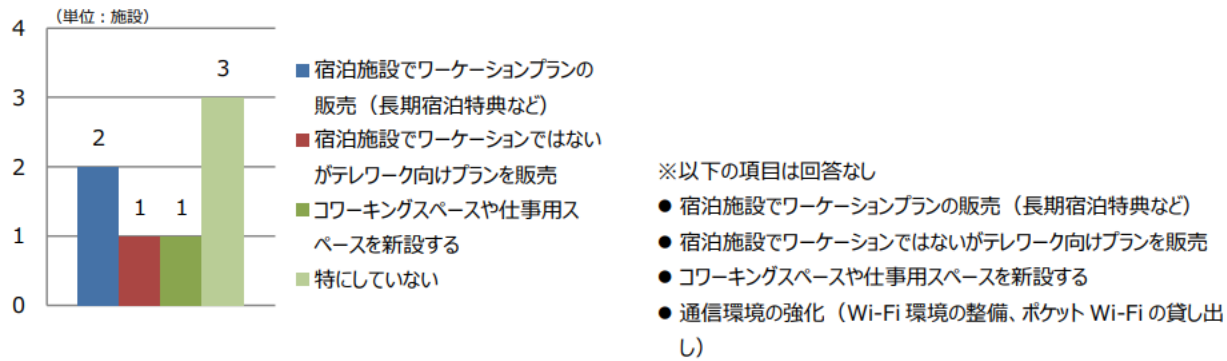


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 自治体・DMO等編)

ワーケーションに関連した、地域や組織で取り組みを検討しているもの(複数回答)



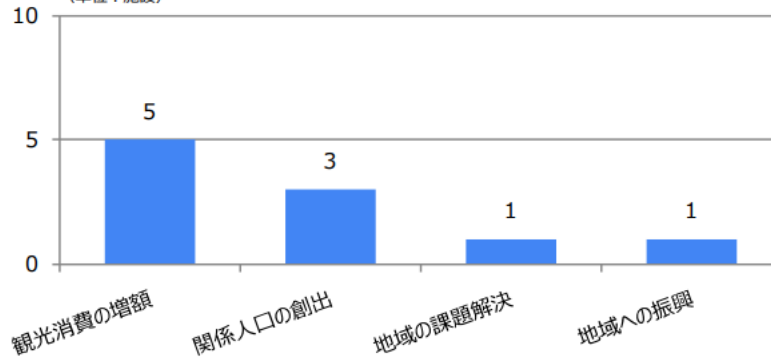
(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 自治体・DMO等編)

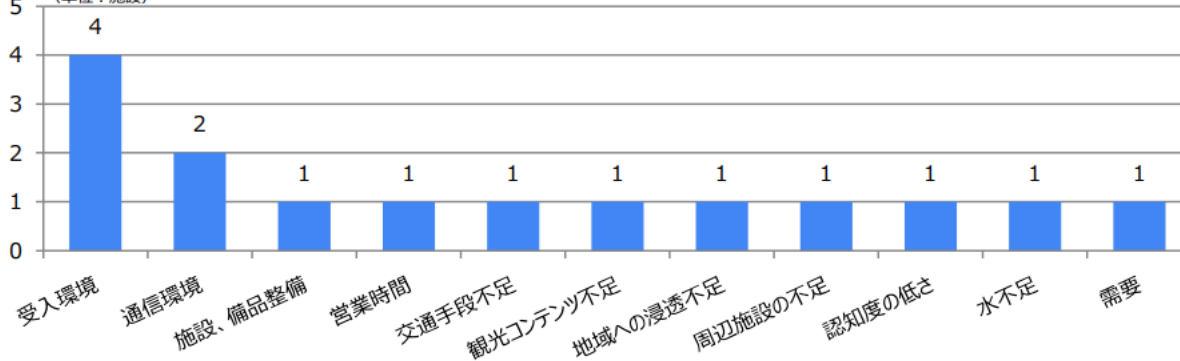
ワーケーションを実施するメリット(自由記述より回答を要素化)

(単位:施設)



ワーケーションを実施するデメリット・懸念点(自由記述より回答を要素化)

(単位:施設)



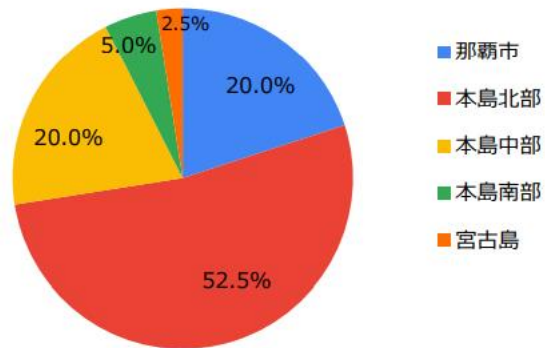
(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

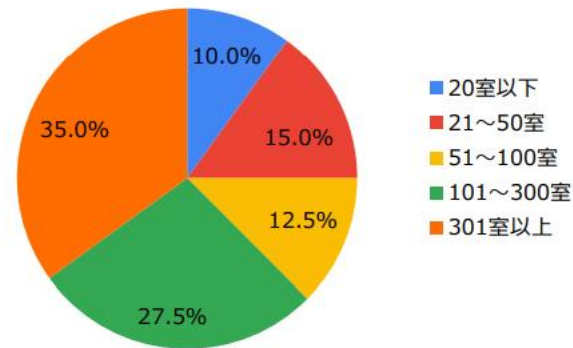
2.実態調査(受け入れ環境 宿泊施設編)

施設概要

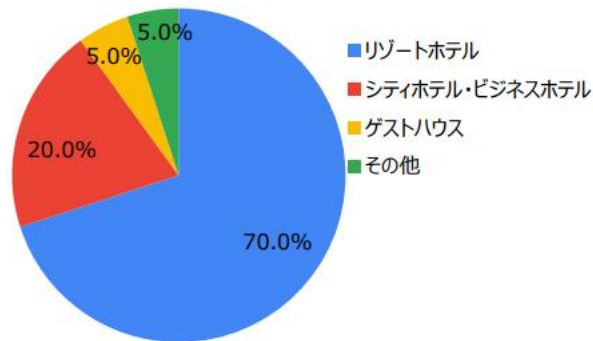
【所在地】



【客室数】



【施設タイプ】

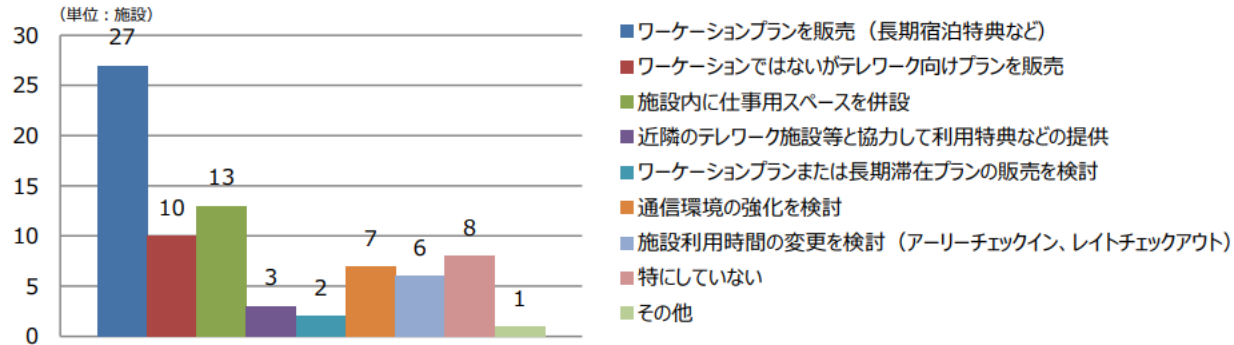


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 宿泊施設編)

過去2年間のワーケーションに関連した取り組み(複数回答)

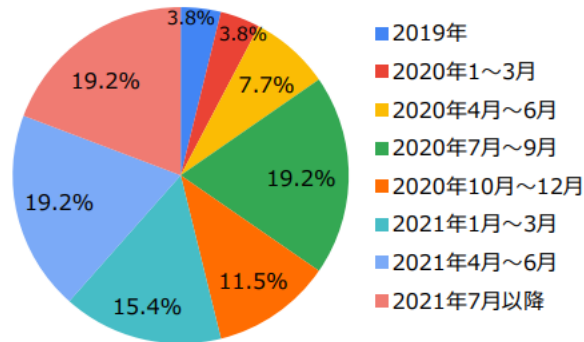


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

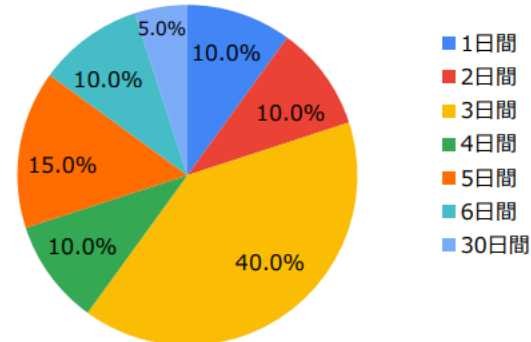
シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 宿泊施設編)

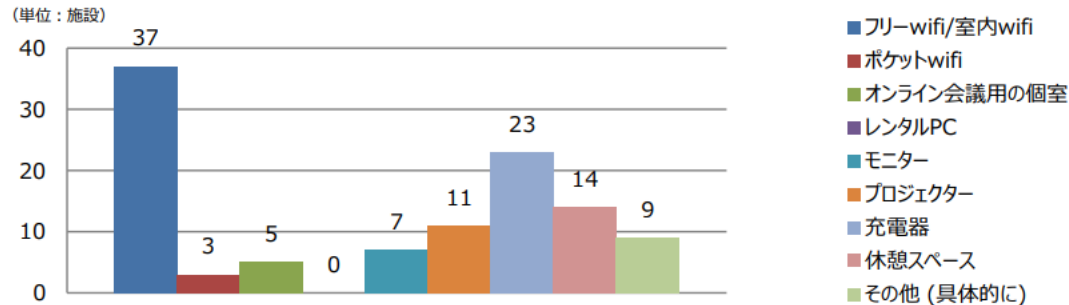
ワーケーションプランの販売開始時期(販売施設のみ)



ワーケーションプラン利用者の平均滞在日数



施設内にて貸出可能・利用可能な設備・備品(複数回答)

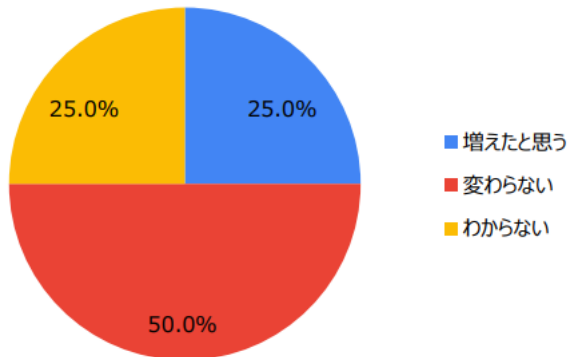


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

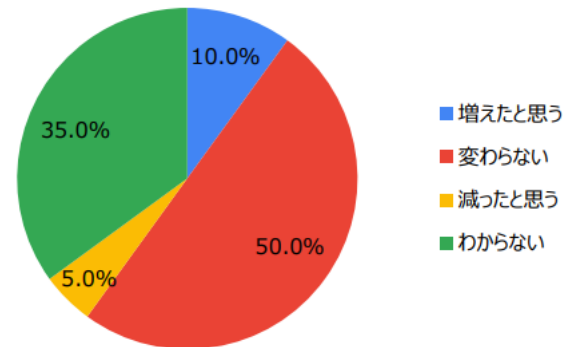
シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 宿泊施設編)

ワーケーションプラン販売による影響
【平日利用や長期滞在】



【個人の消費額】



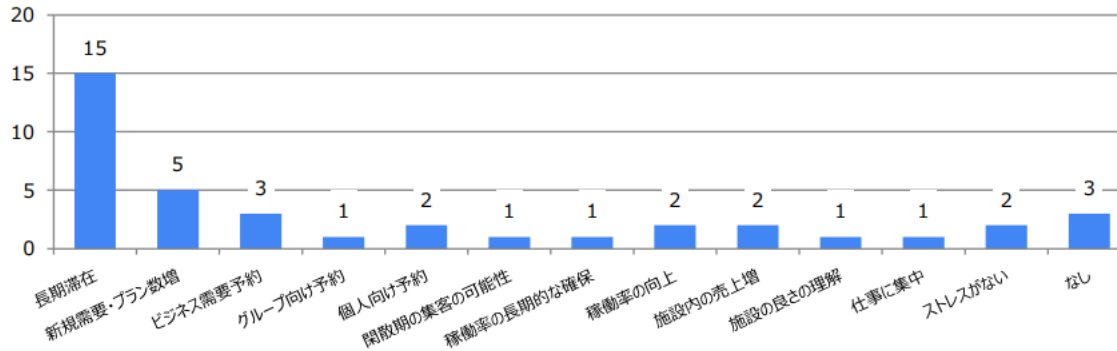
(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 宿泊施設編)

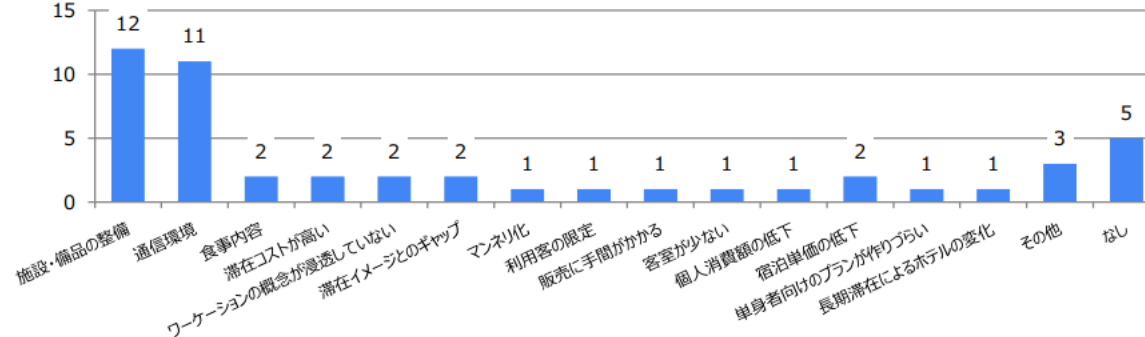
ワーケーションを実施するメリット (自由記述より回答を要素化)

(単位:施設)



ワーケーションを実施するデメリット・懸念点 (自由記述より回答を要素化)

(単位:施設)

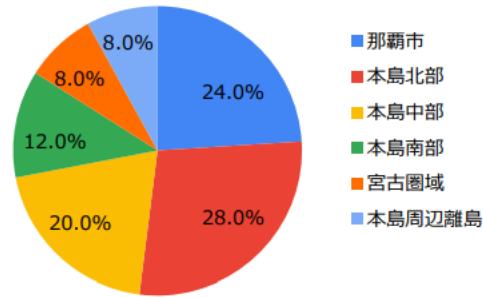


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

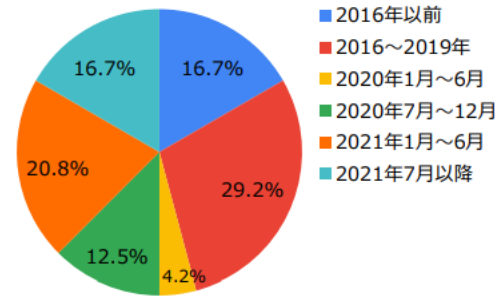
シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 テレワーク施設編)

施設概要
【市町村】



【開所時期】



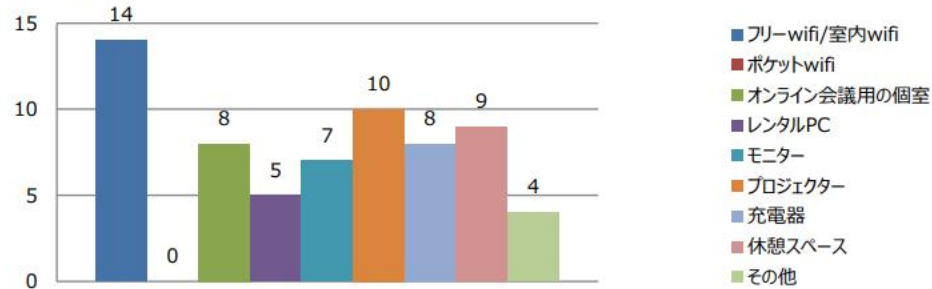
(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 テレワーク施設編)

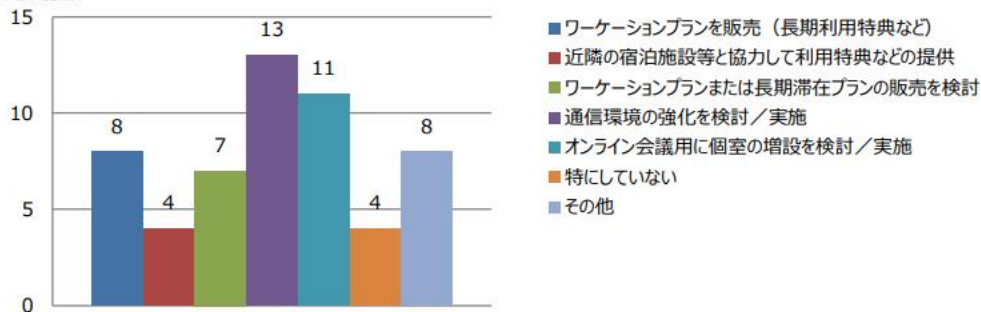
施設内にある設備・備品 (複数回答)

(単位:施設)



過去2年間のワーケーションに関連した取り組み (複数回答)

(単位:施設)



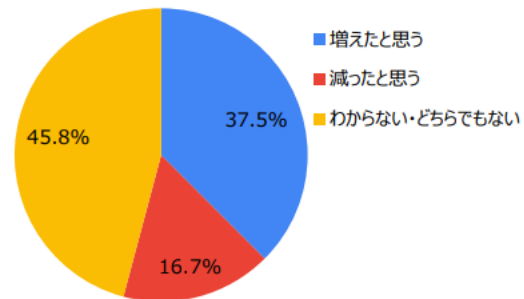
(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

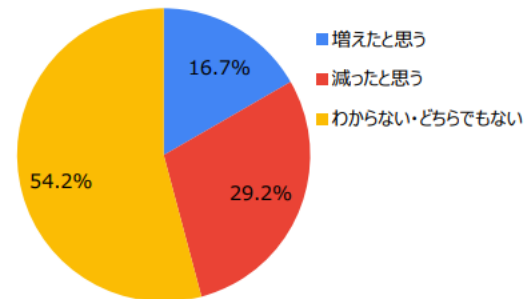
2.実態調査(受け入れ環境 テレワーク施設編)

「ワーケーション」という言葉が普及する以前に比べた場合の変化

【平日利用や長期滞在】



【個人の消費額】

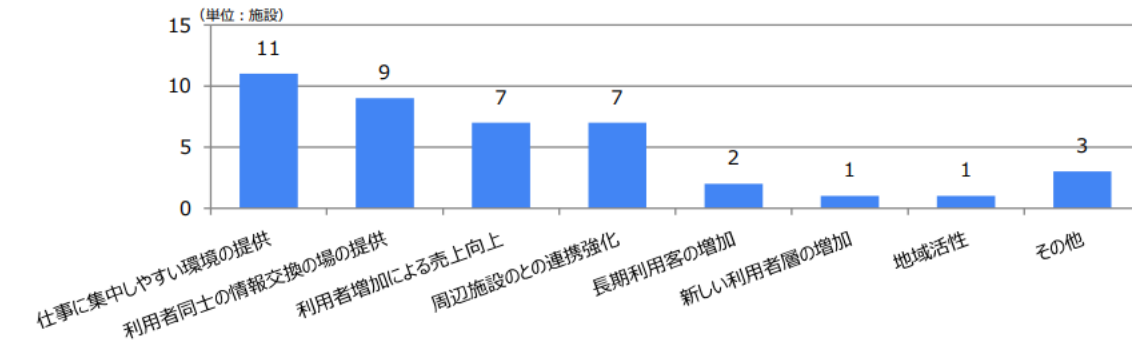


(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

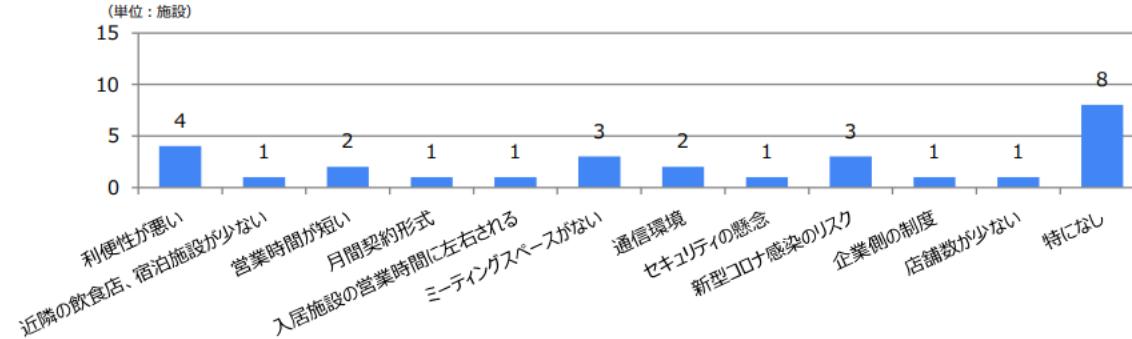
シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

2.実態調査(受け入れ環境 テレワーク施設編)

ワーケーションを実施するメリット(自由記述より回答を要素化)



ワーケーションを実施するデメリット・懸念点(自由記述より回答を要素化)



(出所)内閣府 沖縄総合事務局(2022)「令和3年度 観光地域動向調査事業『ワーケーションに関する調査報告書』」

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(和歌山県・紀南地域)

【経緯】

- ・ 県では、従来からテレワークの推進やIT企業の誘致に積極的だった経緯がある
- ・ 2019年に長野県と連携し「ワーケーション自治体協議会」を設立
- ・ 設立時、65の自治体が会員として参画、和歌山県知事が会長に就任する



シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(和歌山県・紀南地域)

【取り組み内容】

- 3泊4日のモニターツアーを実施
(アンケートからリアルなニーズを把握)

- 受け入れ環境の整備

(ハードの整備とともに、住民への理解促進)

※とくに、人(コーディネーター)の重要性

- 情報発信の強化
(HPの開設とパンフレットの作成など)



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,<https://www.mlit.go.jp/kankochoworkation-bleisure/>
白浜町ホームページ,<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/soshiki/somu/kikaku/gyomu/1577342565456.html>

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(和歌山県・紀南地域)



(出所「和歌山県ワーケーションサイト」 <https://wave.pref.wakayama.lg.jp/020400/workation/index.html>)

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(和歌山県・紀南地域)

ワーケーション実施事例

Day 1

10:25 ~ 11:45

羽田空港→南紀白浜空港

13:00 ~ 14:00

すさみ町内で昼食

@BUSH DE COFFEE



17:30 ~ 21:00

地区住民との意見交換会

@那智勝浦町



Day 2

11:00 ~ 13:00

熊野古道散策



13:30 ~ 14:30

那智勝浦町内で昼食

@勝浦漁港にぎわい市場

17:30 ~ 21:00

たなべ未来創造塾と意見交換会

@シリコンバー



Day 3

9:30 ~ 13:00

白浜町内で農業体験&昼食会



13:30 ~ 14:30

白浜町内で温泉散策 @崎の湯

15:00 ~ 17:30

アドベンチャーワールドで
テレワーク&園内散策



18:35 ~ 19:40

南紀白浜空港→羽田空港

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(北海道・北見市)



【経緯】

- 学生が地元に残るための方策としてIT企業誘致を画策したことがきっかけ
- 東京で働く人を将来的に北見市にUターンしてもらおう
「サケモデル」を考案



(出所)国土交通省・観光庁(2022)「新たな旅のスタイルーワーケーション&プレジャー」,
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/>

シリーズ4:ワーケーションを受容する(地域側)

3.事例紹介(北海道・北見市)

【取り組み内容】

- 商店街の空き店舗を活用し、サテライトオフィスを整備(利用者は年間2000名~3000名)
- 産学官の連携スキームで地域課題解決を目指す
- HP「はたらぶ」等を活用し、プロモーションを展開
- 航空会社との連携やふるさと納税サイトへの参画も
- 法人から個人へのユーザーの拡大を模索、また官から民へのシフトも課題(自走化)



シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(北海道・北見市)

Work & Stay KITAMI BASE

北見駅前の商店街の一角。クリエイターや東京の企業の社員など、さまざまな業種のユニークな人たちが集まっているワークスペースです。

2階には宿泊施設(シングルルーム5部屋)を併設。

ワーケーションプランにお申込みの方は無料で宿泊できます。

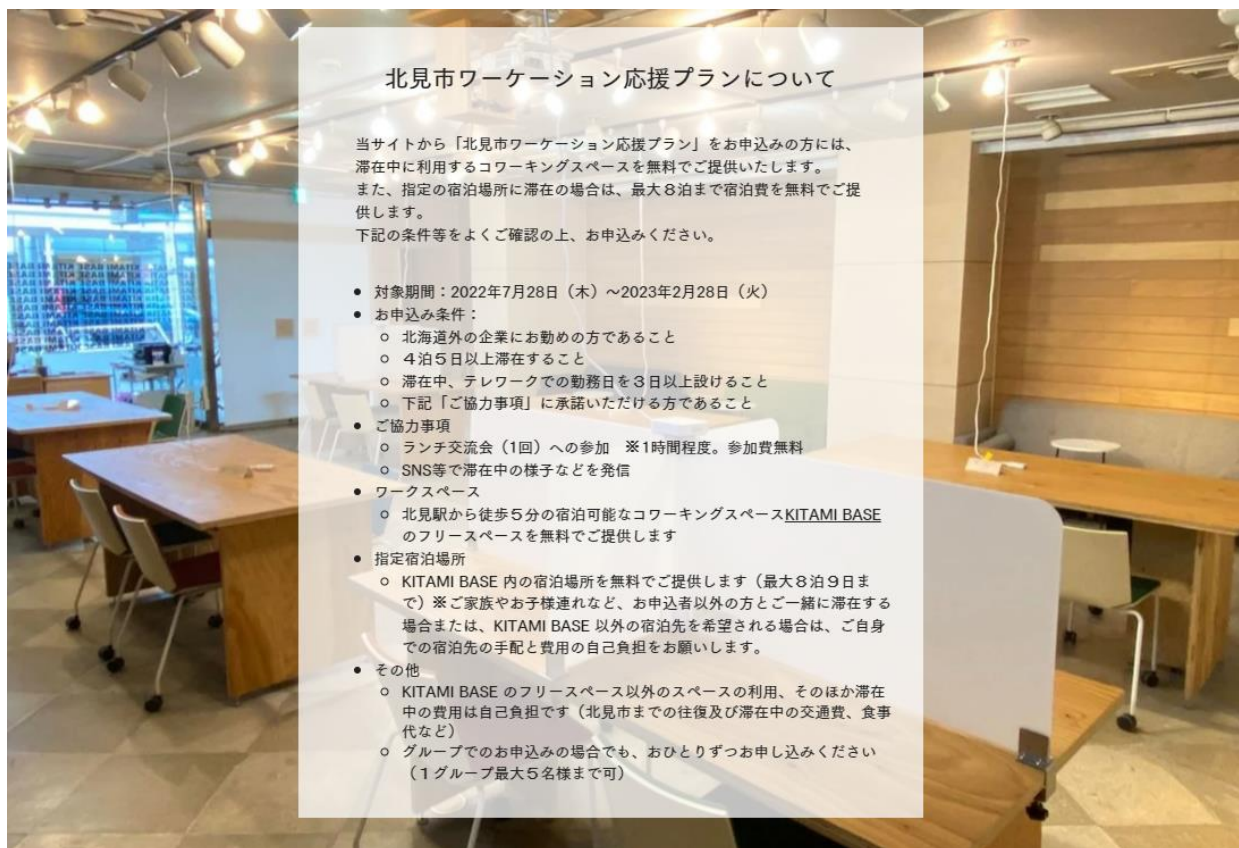
KITAMI BASEの詳細は[こちら](#)≫



(出所「ワーケーション・イン・北見」 <https://www.kitami-workation.com/>)

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(北海道・北見市)



北見市ワーケーション応援プランについて

当サイトから「北見市ワーケーション応援プラン」をお申込みの方には、滞在中に利用する coworking スペースを無料でご提供いたします。
また、指定の宿泊場所に滞在の場合は、最大8泊まで宿泊費を無料でご提供いたします。
下記の条件等をよくご確認の上、お申込みください。

- 対象期間：2022年7月28日(木)～2023年2月28日(火)
- お申込み条件：
 - 北海道外の企業にお勤めの方であること
 - 4泊5日以上滞在すること
 - 滞在中、テレワークでの勤務日を3日以上設けること
 - 下記「ご協力事項」に承諾いただける方であること
- ご協力事項
 - ランチ交流会(1回)への参加 ※1時間程度。参加費無料
 - SNS等で滞在中の様子などを発信
- ワークスペース
 - 北見駅から徒歩5分の宿泊可能な coworking スペース **KITAMI BASE** のフリースペースを無料でご提供します
- 指定宿泊場所
 - KITAMI BASE 内の宿泊場所を無料でご提供します(最大8泊9日まで) ※ご家族やお子様連れなど、お申込者以外の方と一緒に滞在する場合または、KITAMI BASE 以外の宿泊先を希望される場合は、ご自身の宿泊先の手配と費用の自己負担をお願いします。
- その他
 - KITAMI BASE のフリースペース以外のスペースの利用、そのほか滞在中の費用は自己負担です(北見市までの往復及び滞在中の交通費、食事代など)
 - グループでのお申込みの場合でも、おひとりずつお申し込みください(1グループ最大5名様まで可)

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(長崎県・五島市)

【経緯】

- リモートワークが五島市の出身者が将来、島に戻るきっかけになると期待
- 2018年くらいから、島内でPCを片手に仕事をしながら、空いた時間で釣りを楽しむ人の存在を発見
- 2019年にWeb系メディアからのお誘いがきっかけで、リモートワークの実証実験を実施(50名集客)



シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(長崎県・五島市)

【取り組み内容】

- ・ 2020年1月に「五島ワーケーションチャレンジ2020」を開催する(宿泊費・交通費は自己負担ながら定員を上回る参加)
- ・ 「五島ワーケーションチャレンジ2020」開催中に、地域の人と、ワーケーション参加者が交流するイベント「ホットラックパーティー」を実施(イベント開催5回で250名の集客) イベントを通じた地域課題解決の方策が生まれた
- ・ 来訪者と受け入れ側、双方にメリットがあり、継続するしくみづくり「心かようワーケーション」が必要
- ・ 地域として何のために、誰のために実施し、どのような人に来てもらいたいかを、しっかり定めて実施することが重要



(出所「長崎ワーケーション特設サイト」 <https://goto.nagasaki-tabinet.com/feature/workation>)

シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

3.事例紹介(長崎県・五島市)



「解決策が見えない問題」と向き合う 五島列島タイムワープ・スタディー

九州の最西端に位置する国境離島・五島列島。その少子高齢化率は、日本全体の20年先をいっていると言われ、人口減少が特に進んだ国内有数の「課題先進地域」です。

でも、その一方で離島の価値観に魅せられ移住する20代、30代が急増し、全国でも異例の「65年ぶりの社会増」を実現するなど、「小さくても幸せな生き方」を模索するフロンティアでもあります。

日本が「超超高齢化社会」に突入すると予測されている2040年。日本の未来、ひいては世界の未来を先どりしている国境離島・五島へ、「正解のない未来」について、丁寧に理解し、思考する旅に出かけませんか？

(出所「長崎ワーケーション特設サイト」 <https://goto.nagasaki-tabinet.com/feature/workation>)

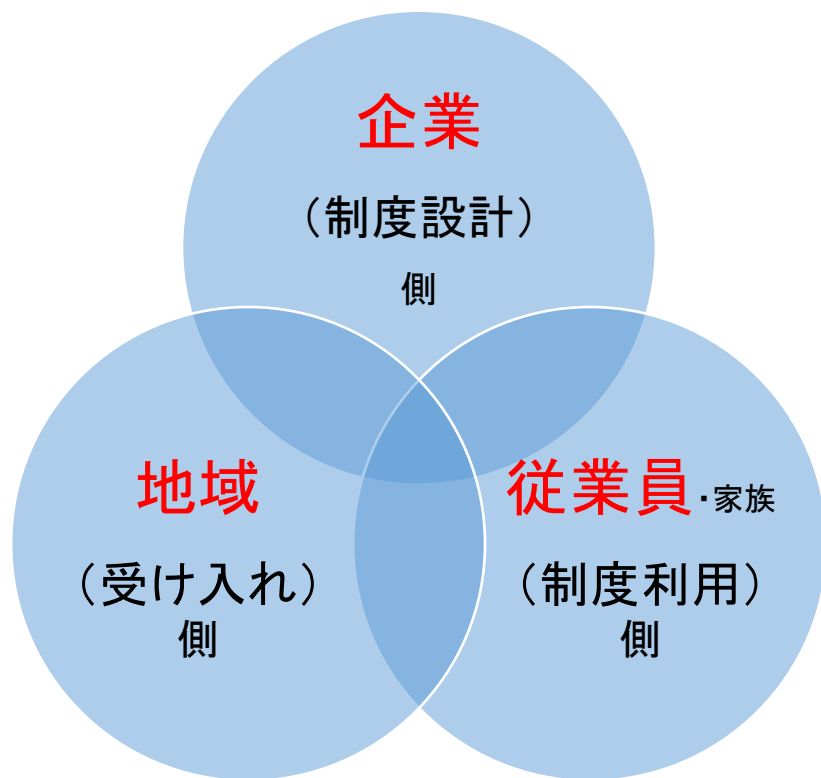
シリーズ4:ワーケーターを受容する(地域側)

4.まとめ

- 先行する地域は、**実証実験段階から、本格的な受け入れへ**シフトしつつある
- 当初は、**観光の延長線上**で、地域経済の活性化を目論んだ受け入れが中心であったが、近年では、**地域課題の解決のヒントを発掘したり、地域住民との交流等の社会的効果**を享受する傾向が増す
- 持続的な受け入れを果たすためには、**官主導から民との協働**、あるいは**民主導**へと、受け入れ主体側の変化・拡充も求められる

まとめ

三方よしのワーケーションを目指そう！



- 利己と利他を混在させた、双方向のメリットが混ざり合うような関係の構築が求められる
- 地域貢献と、そこから獲得されるメリットの検証を継続的に行うことで、制度の質がアップデートされる

ご清聴ありがとうございました。

